

自由な席で働くことの有効性
～オフィス環境の変化とコミュニケーションの関係～

武蔵大学経済学部経営学科

山崎ゼミナール 三年

内山蓮 高橋紘奈 江尻歩美

左近侑佳 諸岡幸恵

<問題意識>

私たちの大学の講義は自由席である。しかし、よくよく考えてみると、毎回いつも同じメンバーと同じ席に座って講義を受けていることに気づいた。周りを見渡すと、周囲に座っている学生にも同じことがいえそうである。つまり、学生は講義が自由席であるにもかかわらず、自ら固定席を作り上げてしまっており、その結果、同じメンバーとのコミュニケーションばかりが増加している。この現象は、企業でも起きているのではないだろうか。実際に、オフィスを自由席にしたことによって、どのような関係の人とのコミュニケーションが増えたか、従業員間のコミュニケーションはどのように変化したか、また、その変化は企業に生産性の向上や創造性の発揮といった効果をもたらしているのか。これらに着目し、本研究では自由席を導入している企業を対象にアンケート調査・ヒアリング調査をし、分析を行うこととする。

また、本論文では、三種に分けられるコミュニケーションの中から、インフォーマル・コミュニケーションに限定して研究を進めていくこととし、加えて、本論文の生産性の定義は古川（2015）より、オフィス・ワーカーの情報交換度、創造性の発揮、モラルの向上（古川，2015，2頁）とする。

<仮説>

仮説1：自由席(ABWやフリーアドレス)導入することにより、インフォーマル・コミュニケーションが増える

仮説2：フリー・アドレス導入によりコミュニケーションは増加するが、生産性向上にはつながらない

ヒアリング調査、アンケート調査の結果は、ほとんどの社員が自由席導入後、インフォーマル・コミュニケーションは増えたと実感していることから、仮説1は支持されたといえるだろう。

他方、仮説2に関しては、ヒアリング調査の結果から、フリー・アドレス導入により、インフォーマル・コミュニケーションが増加しているとともに、社員間での情報交換の機会は増加していた。つまり、生産性向上、オフィス・ワーカーの情報交換度、創造性の発揮、モラルの向上、に繋がっている可能性が高いとみられ、仮説2は支持されなかったと考えられる。